

トラブルシューティング：KVMバックアップの復元がエラー"From J to I is not allowed."で失敗する場合のFMC 1000 to FMCvのトラブルシューティング復元を中止する(&Q);

内容

問題

Firewall Management Center(FMC)1000(FMC 1000)ハードウェアアプライアンスから、FMC 1000から取得したバックアップを復元して、KVMに展開されているFMCvに移行しようとする、復元操作がただちに失敗し、コマンドラインインターフェイス(CLI)に次のエラーメッセージが表示されます。

```
From J to I is not allowed.. Aborting the Restore
```

KVM上のソースFMC 1000とターゲットFMCvの両方で、表示されている同じソフトウェアバージョン (7.0.7、ビルド518) が実行されている場合でも、移行の試行はブロックされます。復元プロセスが完了せず、KVM上のターゲットFMCvは復元前の状態のままになります。エラーは、復元プロセスに組み込まれた互換性チェックによって生成され、一時的または回復可能な障害ではありません。プラットフォームによって意図的にブロックが適用されています。

この問題の主な特徴は次のとおりです。

- バックアップは、物理FMC 1000アプライアンスから作成されました。
- 復元ターゲットは、KVMに展開されているFMCvです。
- 送信元とターゲットの両方がソフトウェアバージョン7.0.7 (ビルド518) を実行しています。
- 復元操作は、エラー「From J to I is not allowed..復元を中止しています」。
- このエラーは、ソース・システムとターゲット・システム間のバージョン・パリティに関係なく発生します。

環境

- ・ ソースプラットフォーム：FMC 1000 (物理ハードウェアアプライアンス)。
- ・ ターゲットプラットフォーム：KVMハイパーバイザ上に展開されたFMCv。
- ・ ソフトウェアバージョン (ソースとターゲットの両方) :7.0.7 (ビルド518)。他のソフトウェアバージョンも影響を受ける可能性があります。

解決方法

「From J to I is not allowed..Aborting the Restore」は、FMC復元プロセス中に実行される互換性チェックによって生成されます。このチェックでは、リストア・ターゲットのモデル・クラスに対してバックアップ・ソースのモデル・クラスが評価されます。エラーメッセージ内の識別子「J」と「I」はそれぞれ、ソース(FMC 1000)プラットフォームとターゲット (KVM上のFMCv) プラットフォームの内部モデルクラス識別子を表します。これらのモデルクラスがクロスプラットフォームのリストアに対応していない場合、プロセスは即時かつ意図的に中断されます。

次の手順では、この問題を理解して解決するための正しいアプローチを説明します。

1. エラーが発生した理由を理解する

KVM上のFMC 1000からFMCvへの移行パスはサポートされていないため、復元操作はブロックされます。表示されているソフトウェアバージョンだけを一致させることでは、クロスプラットフォーム復元はサポートされません。FMCのバックアップ復元プロセスでは、モデルクラスの互換性チェックが実行され、ソースモデルクラスとターゲットモデルクラスに互換性がない場合、復元は中止されます。これは意図的なプラットフォームの保護であり、バグや一時的なエラーではありません。

2. リストアを再試行したり、バイパスしたりしないでください

復元操作を再試行しないこと、およびモデルクラスチェックをバイパスする試行を行わないことが重要です。このチェックを強制または回避すると、ターゲットのFMCvがサポートされていない状態のままになり、機能しない可能性があるため、仮想アプライアンスの完全な再構築が必要になる場合があります。ターゲットプラットフォームの整合性を保護するための互換性チェックが存在します。

3. サポートされている方法でFMCを移行します

2つのオプションがあります。

オプション1：サポートされている移行パスを特定する

シスコは、FMC 1000でサポートされる特定のモデル移行パスを文書化しています。KVMハイパーバイザは、バックアップの復元を介したFMC 1000モデルの移行に関しては、文書化されておらず、サポートされているターゲットプラットフォームでもありません。続行する前に、『Cisco FMCモデル移行ガイド』を参照して、サポートされているターゲットプラットフォームと移行ワークフローを確認する必要があります。FMCモデルの移行に関連するシスコのドキュメントは、この記事の「関連コンテンツ」セクションに記載されています。

オプション2：インポート/エクスポートプロセスを使用する

ソースFMCからサポートポリシーを手動でエクスポートし、ターゲットFMCにインポートします。

送信元FMC

a. ソースFMCで、System > Tools > Import/Exportの順に移動します。

b. エクスポートするポリシーを選択します。このドキュメントの作成時点では、VPNなどの一部のポリシーはエクスポートできません。ターゲットFMCで手動で設定する必要があります。

c. Exportを選択して、.sfoファイルをダウンロードします。

ターゲットFMC

d. ターゲットFMCで、System > Tools > Import/Exportの順に移動し、Upload Packageを選択します。

e. Choose Fileを選択し、.sfoファイルを選択します。

f. Uploadを選択します。

g. Importを選択します。インポートマニフェストが表示されます。名前と内容が既存のオブジェ

クトと一致する場合は、ネットワークオブジェクトとポートオブジェクトが再利用されます。それ以外の場合、名前が重複しているオブジェクトは、名前に番号が追加された新しいオブジェクトとしてインポートされます。既存のオブジェクトまたは新しいオブジェクトにインタフェースオブジェクトをマッピングすることもできます。

h. Importを選択します。インポートタスクが開始されます。

i. インポートタスクが完了すると、ブラウザが更新され、インポートされたポリシーが表示されます。

原因

復元エラーの根本原因は、FMC 1000からKVM上のFMCvへの移行パスが、サポートされていないモデル移行パスであることです。FMCのバックアップ復元プロセスには、バックアップソースのモデル識別子と復元ターゲットのモデル識別子を比較する内部モデルクラス互換性チェックが含まれます。このシナリオでは、ソースFMC 1000はモデルクラスID「J」を送信し、KVM上のターゲットFMCvはモデルクラスID「I」を送信します。これら2つのモデルクラスはクロスプラットフォームリストアに対して互換性がないため、プロセスは直ちに次のメッセージで中断されます。

```
From J to I is not allowed.. Aborting the Restore
```

ソース・システムとターゲット・システムの両方が同じソフトウェア・バージョン (7.0.7、ビルド518) を実行しているだけでは、リストアをサポートすることはできません。互換性チェックは、バージョンベースではなく、モデルクラスベースで行われます。

関連コンテンツ

- [Cisco FMCモデル移行ガイド：FMCモデルの移行について](#)
- [Cisco FMCモデル移行ガイド – FMC移行ワークフロー](#)
- [FMCのインポート/エクスポート](#)
- [シスコのテクニカルサポートとダウンロード](#)

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。